

2026.7.15

経済学会例会

民間非営利組織のネットワーク志向 ―協働と組織の多様性をめぐる調査研究―

鈴木 純

NPO 法の施行から四半世紀以上が経過し、NPO 法人を含む非営利セクターの諸組織は、いまや社会のさまざまな場面でその役割を定着させつつある。同時に、NPO が組織構造的にも、機能的にも、きわめて多様な存在であることも明らかになっている。しかし、その多様性をどのような視点から理解するのかについて、これまでの NPO 研究の枠組みで十分に説明できているとは言えない。

NPO という組織体を特徴づける性質のひとつとして、地域社会のネットワークとの結びつき、あるいはその相互作用の重要性が指摘されてきた。本報告では、NPO のネットワーク形成に関する既存研究が地域横断的な比較や形成要因の検証に乏しいという課題に着目する。この課題に対して、報告では、兵庫・神奈川・山陰の 3 地域における全 NPO 法人を対象とした活動調査結果を結合したデータセットを用いて (N=1,932)、NPO のネットワーク形成志向 (地域社会や関係主体とのつながりを強化することへの意欲) が組織特性や環境条件とどのような関連を持っているか、そしてそれは地域によってどのように異なるのかについて探った分析を紹介する。組織の中心メンバーの年齢構成と、外部組織との協働関係の多様性に注目して分析した結果、若年層を含む組織ほどつながり強化志向が強く、高年齢層を含む組織ではその志向が弱い傾向が確認された。また、行政・企業・学校・地縁団体など、協働相手が多様な組織ほどその志向を強く持つことがいずれの地域でも共通して示された。一方で、年齢構成の効果には地域差が見られることも明らかになった。ネットワーク形成に対する態度について、地域差に起因する要因と地域差では説明できない要因の双方が存在することは、地域特性を踏まえた協働関連施策のあり方に対して一定の示唆を与えうるものと考えられる。

また報告では、NPO の多様性の捉え方や、その実態・社会的役割に関する調査研究が抱える構造的課題についても考察を加えたい。